

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期におけるわが国の経済は、堅調な企業業績を背景とした設備投資の増加や雇用情勢の改善により、緩やかな景気拡大が続きました。一方、個人消費動向は、原油価格の高騰による諸物価の上昇や米国のサブプライムローン問題の影響等に加え、実質増税等による先行きの不透明感が拡がり横ばいの状況が続いております。

当社の主力とする調剤業界におきましては、医療費の抑制を目的とした医療制度改革が推進されており、長期投薬の増加やジェネリック医薬品の使用促進、また医療保険の自己負担額増加等の影響により、薬局調剤医療費の伸び率は鈍化傾向にあり、依然として業界を取り巻く経営環境は厳しいものと予想されます。

このような経営環境の中で、当社のコア事業である調剤薬局事業におきましては、平成19年7月に全株式を取得した株式会社山梨薬剤センターの売上増加に加え、既存店が順調に推移したことから、売上高10,061百万円(前年同期比16.8%増)となりました。医薬品卸事業におきましては、子会社である株式会社メディシンー光が市場拡大の進むジェネリック医薬品の販売を強化したことにより、順調に推移しました。また、新規事業として開始した介護事業におきましては、子会社である株式会社ヘルスケアー光にて有料老人ホーム2施設の運営を開始しました。

以上の結果、当第3四半期累計の業績は、売上高10,772百万円(前年同期比18.2%増)、営業利益494百万円(前年同期比63.2%増)、経常利益436百万円(前年同期比71.4%増)、四半期純利益は222百万円(前年同期比333.2%増)となり、増収増益となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産10,011百万円となり、前連結会計年度末と比較して、1,631百万円増加いたしました。

流動資産の合計は4,005百万円となり、前連結会計年度末と比較して790百万円増加いたしました。これは主に、調剤薬局事業の規模拡大に伴い、現預金・売掛金および棚卸資産の増加によるものです。

固定資産の合計は6,005百万円となり、前連結会計年度末と比較して841百万円増加いたしました。これは主に、M&Aにて全株式を取得した山梨薬剤センターの資産およびのれんの増加によるものです。

流動負債の残高は4,269百万円となり、前連結会計年度末比907百万円増加し、固定負債の残高は3,094百万円となり、前連結会計年度末比170百万円増加いたしました。負債合計で1,077百万円の増加となった主な要因は、M&A資金等を金融機関にて調達したことによる借入金の増加739百万円と買掛金96百万円が増加したことによるものです。

純資産の合計は2,647百万円となり、554百万円増加いたしました。これは主に第三者割当増資による新株式発行360百万円と利益剰余金の増加によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績見通しにつきましては、平成19年12月5日公表の「平成20年2月期通期(連結・個別)業績予想の修正に関するお知らせ」での業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

平成19年7月に、株式会社山梨薬剤センターの全株式を取得し子会社化いたしました。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

影響額が僅少なものにつきましては、一部簡便的な方法を採用しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

法人税法の改正（(所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号)及び(法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号)に伴い、平成19年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更による損益への影響は軽微であります。